

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900259
法人名	医療法人社団 栗整形外科病院
事業所名	グループホームどんぐり
所在地	四国中央市中之庄町393-1
自己評価作成日	平成21年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が併設型整形外科病院であり、個人のレベルに合わせたリハビリや日常生活の健康管理も十分にできており、急変時や特変時はすぐに対応できる環境にあります。  
 ・様々なレクリエーションを取り入れる事でその方一人一人に好きなレクリエーションを選んでいただいたり、様々な事を職員と共にチャレンジする機会を設けています。  
 また、音楽療法を月2回設けており、音楽療法士の先生が来られ、一人一人のプログラムに合わせて楽しく歌ったり、お話しする時間を作っています。ほとんどの利用者の方が参加され、心と身体のリハビリを職員と一緒に楽しく取り組んでいます。  
 ・外に出かける機会をなるべく多く持ちたいと考えており、少人数単位でゆっくり散歩に出かけたり、時間に余裕があれば市内をドライブしたりなど、気軽に外へ出かけられる環境作りを現在おこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人が病院や施設、デイサービスセンター、高齢者専用居住施設などを近接させてホームも運営している。ホームの利用者も施設居住者等も法人全体で生活を支援する取り組みを行っており、利用者にとっては近所付き合いが気軽にできる「地域」が存在している。ホームでは「自分らしさ」や「楽しい暮らし」という理念を実現するための支援に取り組んでいる。管理者等は、開設後7年目でこの理念の難しさを改めて感じていると言い、利用者の生活の質や職員のケアの質向上への意識の高さがうかがえる。医療面のケアは近接の病院に支援してもらえる安心感もあり、職員は介護に関してのプロ意識が高く、利用者の笑顔を引き出すことに余念がない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム どんぐり

(ユニット名) 3階 檜

記入者(管理者)

氏名 栗 育子

評価完了日 21年 8月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」を理念にあげており、職員の目に付くところに掲示することで理念を共有している。</p> <p>(外部評価) ホーム開設5年の節目に、理念の「自分らしさ」を利用者一人ひとりが表現しながら生活できているかについて、ホーム全体で見直しを行った。管理者や職員は理念を絶えず意識して共有化を図っており、新たな取り組みに踏み出している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所に散歩に出かけた際は積極的に挨拶をしたり、地域の祭りなどには神輿や太鼓が立ち寄ってもらったりお誘いを受けて出かけたりしている。また、地域の幼稚園のお遊戯会や小学生のボランティア活動の場にもなっている。</p> <p>(外部評価) 地域とは法人の関連施設全体で交流を行っており、法人主催の催し物には近隣住民がたくさん参加している。また、ホームの利用者には、法人内の施設等の利用者とコミュニティを形成するという視点で、近所付き合いを楽しめる支援を行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の場で認知症について話したり、理解を深めていただける様な場を設けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で問題点や指摘点などがあがれば職員間で話し合うようにしている。また、それに対する改善点などが見られた場合も運営推進会議の場で報告するようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は回数も重ねてゆとりが見られ、管理者は「雑談も多くなり」と謙遜するが、委員と運営推進会議を通して打ち解けていることがうかがえる。委員からは利用者のサービスに直結する提案も出されており、会議がサービス向上のために有効に活用されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ふれあい相談員さんが来られ、情報交換を行っている。また、その都度気になったことなどはその場で話し合っている。	
			(外部評価) 母体法人が施設や病院、在宅サービス等を運営しているために、ホームも含め法人自体が市内の社会資源として定着している。そのため市との連携にも長い歴史があり、協働して地域福祉の向上に努めている。しかし、利用者のサービスに直結するような取組みが整備されているとまでは言えない。	市との連携で利用者のサービスが向上する一つの取り組みとして、市内のホーム同士の連携が考えられるが、まとめ役として市担当者や地域包括支援センター、社協等の積極的な協力を得ながら、ホーム同士の連携を図っていく取組みを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束が必要ではないかなどの問題点が出た場合は、職員間で身体拘束について勉強した上で、徹底的に身体拘束をしない最善の方法を話し合うようにしている。	
			(外部評価) 利用者の身体的安全の担保と精神的拘束等について、事例を通してホーム全体で話し合いをもっている。ケアに対する考え方についても、安全が優先されると利用者には拘束につながることもあるため、安全確保のために利用者が精神的なダメージを受けることのないよう、ホーム全体で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人の施設合同で勉強会を開催し、高齢者虐待関連法など講習を行うことで意識を深め防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などの場で学んでいるスタッフは居るが、それを他のスタッフに共有するまでは出来ていない。今後、勉強会の場などを設け、職員間で知識を共有し活用できるように努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする時はパンフレットや書類などで詳しく説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームや玄関・各階に意見箱を設置している、また、意見や要望に関しては来館時などに声掛けを行い口頭で伺うような関係作りに努めており、出た意見に関しては職員間で話し合う場を設け、積極的に改善できるように努めている。	
			(外部評価) 家族が近隣在住の場合は頻繁に来訪があるため、ユニット長が積極的に報告や相談を行っている。遠方の家族には電話等で定期的に連絡するよう心がけている。今後、家族と職員が協働する時間を確保することで異なった視点の意見が聞けることを期待して、家族に行事の際に援助を依頼することを予定していること等からも、家族の意見等を聞くための積極的な姿勢がうかがえる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月ミーティングの際に、管理者と職員間での話し合う場を設けている。また、それに拘ることなく普段から意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者とユニット長、ユニット長と職員、先輩職員と新任職員…など、定期的な会議以外でも色々な機会を通して話し合う時間を確保し、また運営者も気軽に職員に声をかけるなど、意見の言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 賞与支給時、職員の良く努力している所や実績などについて本人と話し合う機会を持つようにしている。大正琴や詩吟など業務に必要なスキルアップ図れるように、講師を招いて定期的な練習の場を設け、イベントなど成果を発表する機会作りを積極的に行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 毎月、同法人老健スタッフと合同の勉強会を行っている。またそれ以外にもなるべく研修の場を設けるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修などで知り合った方達と、定期的に連絡を取り合ったりしている。 また、昨年相互研修という形で互いの施設へ2名ずつ研修に出かけるなどの機会も設けた。今後もそのような機会を作っていければと思っている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前にお話しを十分に伺いなるべく入居に関しての不安を取り除くようにしている。また、入居後も不安や要望などを会話の中で伺い、自分から訴えの少ない方などには特に注意しながらケアを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の際に、家族が不安に思っている事や家族の希望などを必ず聞くようにしている。また、面会に来られた際などにも積極的にご家族に声を掛け、話しを聞き出せるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレット等で説明したり、介護保険の内容が分かりやすく説明している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来ることはなるべくしていただきながら、裁縫などの得意な事などは特に、「していただく」という意識よりも、職員の方が「教えていただいている」という意識の中でケアを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者と家族との関係が途切れないように努めており、何かあれば連絡をとったり来館していただく様にし、特に他科受診や外出などは行ける方には極力一緒に行っていただけるよう協力を願っている。意見や気づきを職員と家族がお互いに言い合えるような関係作りが出来るように日々努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人のデイケアに通っている方や入院・入居している会いたい方が居れば、職員間で連絡を取り合い面会などの場を設けている。また、それ以外の場合は電話や手紙の支援をしている。会いたいと言われる場合は家族と相談し、なるべく希望に添えるように努めている。 (外部評価) 外出の際に、他の利用者に影響がない範囲で馴染みの場所に立ち寄ることもあるが、ホームでの生活が長い利用者の場合はかえって不安にさせる場合もあるので、見極めには十分注意している。法人全体で「地域」を形成していることが特徴の一つでもあり、新しい環境や人間関係に馴染むことにも力を入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員間で常に入居者同士の関係について気になることを話す機会を設け、ケアに活かしていくようにしている。特に、入居してすぐの方などはなるべく職員が間に入るなど円滑な関係を気づけるようなケアや声掛けを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同一法人の運営する、医療サービス、施設サービス、他の居宅サービスを提供することにより、総合的にサポートする環境を整え、退居後在宅担当者会議への意見紹介を行い、退去後支援も怠りのないよう努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアマネや計画作成担当を始め、各職員が希望や意向を聴き、カンファレンスを始め、日常の申し送りの際などに報告し、スタッフ全員で把握している。  (外部評価) 利用者との日常会話から人生の背景を知ろうとする姿勢で取り組んでおり、入浴ケアや散歩時などは思いや意向を聞き取る重要な時間と位置づけて積極的なアプローチをしている。聞き得た情報は申し送りや会議等で共有しているが、介護日誌のみに記録しているため、貴重な情報が埋もれてしまい、後での確認が難しくなることも考えられる。	積極的に収集した利用者の生活歴やちょっとした嗜好等の記録は貴重な財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものであるため、専用の用紙に書き足せるように工夫し、気軽に手にして読み返すことが可能な場所に設置する等、記録の蓄積と共有化を望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前・入居時に本人やご家族、在宅担当ケアマネ等から情報を収集し、各個別表に記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また、入居後も職員との会話の中で分かった事などは追加していくようにし、職員間で話し合っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一人一人の1日の状態が把握出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にカンファレンスを行っているが、家族の方の参加が難しく、家族の意見が反映されているかは疑問が残るが、参加出来ない場合は電話などを利用しなるべく意見が聞けるように努めている。	
			(外部評価) 担当職員制をとり、利用者のモニタリングは毎日の経過記録を月ごとに集約したものを基に、全員で話し合っている。ホーム全体で利用者全員を支援するとの考えから、会議は3ユニット合同で、積極的な意見交換を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に日々の状況を細かく記載するように心がけている。職員は全ユニットを通し個別経過記録等の情報を共有できるようにしている。気になる点については誰でも記載するようにし、そのことについても検討する機会を設けるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人所有の施設（リハビリ機器・入浴装置・福祉車両等）をその時の利用者の状況や要望に合わせ、他部門と連携しながら柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関などとは連携をとり、問題点や要望があれば気軽に協力依頼が出来るような関係作りを構築している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 法人の施設として栗整形外科病院が隣接している為、 いつでも対応できるようになっている。また、本人や 家族の希望も聞き、かかりつけ医が他に有る場合も連 絡を取り受診が出来るように支援している。  (外部評価) 母体病院が地域に密着した活動を行っているため、在 宅時代からかかりつけ医になっている利用者が多い。 他にかかりつけ医がいる場合も母体病院が専門的な連 携を取る仕組みがある。ホームでの生活が長くなると 隣接している母体病院との繋がりがより強くなり利用 者や家族の信頼を得るため、安心を望む家族等の希望 でかかりつけ医が母体病院に変わることもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 法人の施設として栗整形外科病院が隣接しており、い つでも対応出来るようになっており、病院の看護師と 毎日連絡を取り合い、病院看護師も入居者の健康把 握・管理を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 同法人医療機関との連携は取れているが、他医療機関 にかかっている場合でも情報交換や相談をするよう にはしているが、連携が取れていると言えるほどでは ない。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在法人としては、同ユニットの他の利用者との関係 を鑑み、終末期の対応は併設病院ならびに併設施設に て対応することとしている。以上を説明した上で、本 人や家族が望むのであれば、他医療機関などとの連携 を取りケアしていくように努めている。  (外部評価) 利用者により良い生活を提供するため、法人の理念と してホームや施設、病院は役割分担を行っている。 ホームでは「福祉的に専門性を高める」という視点で の支援について話し合っている。職員にも介護のプロ という意識があり、協働してケアを行う視点を持ちな がら、他職種との連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年定期的に急変や事故発生時に備えての研修と訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年2回定期的に防火防災避難訓練を行っている。  (外部評価) 消防署も交えた避難訓練を年2回行っており、その都度防災の必要性をホームとして再認識している。避難訓練は法人全体で行うため本格的な体制が整備されており、利用者には安心感がある。	地震等の際には、耐震性が高く設備の整った法人の建物は地域の社会資源となり得るため、ホームの設備も含めて地域に社会資源としての役割を表明し、協力体制を築きながら地域貢献できる体制づくりに取り組むことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃から、一人一人個人のプライバシーを損ねないようなケアが出来るよう心がけ、スタッフ間で入居者に対する態度・言動など普段から個別に話し合える様になっている。  (外部評価) 各居室にトイレを設えているため、職員が利用者の居室に入る頻度は高いが、その度に声かけを欠かさずに行っており、プライバシー配慮の基本姿勢がうかがえる。職員は、利用者の人格を尊重するケアを目指した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から本人の希望や思いを聞き出せるような関係を築けるように心がけており、一人一人ゆっくりと話しを伺えるよう努めている。また、本人が理解し、納得できるように何事もよく説明するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の毎日の健康状態をよく観察し、把握することでその人のペースを崩すことなく生活していただけるよう努めている。希望があれば、入浴や散歩など柔軟に対応するようにしてる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣をする際は自分で服を選べるように声掛けやアドバイスを職員は行っている。美容院も昔から慣れ親しんだ所へ行く人も多く、行けるように支援している。月何度かの出張美容室を利用する人も多い。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) なるべく入居者の好みや希望を聞き、季節にあった食事が提供できるようにしている。その都度、味や固さ量なども感想として聞くようにしている。調理などはされないが、食事の片付けや配膳はお手伝いして下さる方が多い。	
			(外部評価) ホームは3ユニットだが、食事は1階ユニットの利用者が2・3階のユニットに分かれて、2ユニットで取っている。大勢で賑やかな方が楽しいことと、利用者が行き先を時々変えることで雰囲気が変わり、さらに食事を楽しめる仕掛けとしている。また、職員も分かれることで、食事介助や声かけが細やかにできることも利点として捉えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は職員が側におり、毎日の食事量をチェックしている。水分量に関しては食事の際、入浴後、訪室時などに水分補給を促すようにしている。また、各自でペットボトルなどに還元水を入れ毎日汲みに行き飲まれる方も多い。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科往診もありDrと連携し、口腔ケアに努めている。ご自分でのケアが難しい方に対しては職員で食後、就寝前にケアをするようにしている。また、口腔状態に応じ専用器具なども歯科Drと相談し利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的にトイレ誘導を行っているが、その方の状態に合わせ、その都度のトイレ誘導も行っている。また、職員間でカンファレンスを行い、排泄面での自立に向けて話し合い、布パンツへ移行するための話し合いも行い、現在支援中である。	
			(外部評価) 利用者の排泄の自立度には差があるが、それぞれのレベルに合わせて排泄ケアに取り組んでいる。自立度の高い利用者には目くばせや声かけを行い、配慮が必要な利用者には、排泄チェック表を基に適切な誘導やケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の場合はNs、Drと相談し、便秘薬を服用するなどの対応を行っているが、なるべく自力排便出来るように運動を促したり水分摂取を促すなどのケアを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ユニット単位の入浴設備利用はもちろん併設施設の準温泉の大浴場・個別浴・シャワー浴も利用し、本人の希望・本人の身体機能等、その日の状態に合わせて入浴を行っている。	
			(外部評価) ホームにもゆったりとした浴室があるが、併設施設等には温泉気分を味わえる浴槽や介護が必要な利用者でも安心して入れる設備等があり、大きな法人の利点を活用しながら利用者に入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠ペースを尊重するようにしている。眠れないと出てこられる方や不安が有る方には職員がしばらく側についてお話ししたり安心していただけるような対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人が服用している薬と効果・副作用を書いた一覧表を置いてあり、現在服用中の薬や変更になった薬などをすぐに情報が共有できるようにしている。新しく処方された薬に関しては特に服用後の状態観察を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内でのレクリエーションなどの参加を呼びかけ、大正琴や詩吟、音楽療法や陶芸など自由に参加出来るようにしている。また、これまでの趣味や生活ペースを崩さず続けていけるよう支援し、俳句を新聞に投書したり、縫い物などをされている方も居る。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば家族と相談の元、体調の許す限り自由に出かけていただいている。なるべくは家族の方に協力していただくようにしているが、職員が同行したり、馴染みのタクシー運転手や外出先の方に協力していただくこともある。 (外部評価) ホームの玄関口は施設の前庭と一緒にいるため、利用者は気軽に外気浴を楽しんでいる。デイサービスや施設のカラオケ等のちょっとしたイベントにも、職員に笑顔で「いってらっしゃい」と声をかけてもらいながら出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には自由に所持していただいているが、認知症が進んでいる方や置き忘れ、物盗られ妄想などが有る方に関しては少額を所持していただいている。買い物などに出かけた際は、支払いは自分の手からお金を出してお店の人に渡せる様に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自室に電話を引く事が出来るように設備していると共に、居室に携帯電話を持ち込まれている人も多く、公衆電話も設置している。手紙や郵便物はポストを館内(2階)に設置し対応しているが、職員に直接手渡しで頼む方が殆どであり、その都度対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ホームの内部や居室は民芸調の雰囲気で落ち着いた雰囲気や色合いの内装にしている。玄関や食堂、詰所前には季節の花や季節の飾り付けを行い、入居者の方が楽しめるようにしている。</p> <p>(外部評価) ホームの造りはゆったりとしており、海向きの大きな窓もあるため、共用空間に大きなテーブルを並べていても開放的な雰囲気がある。1階のリビングを3ユニット協働のスペースとして開放しており、利用者同士のふれあいの場となっている。ホームの特徴をフルに活用しながら、利用者が心地よく過ごせるような工夫がなされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 廊下ソファや詰所前にテーブルと椅子を設置し、そこで気のあった方とお喋りが出来る場所を作っている。また、マッサージチェアを設置する事で気楽に一人くつろぐ方も多い。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室内には本人の使い慣れた物や、思い出の品、家族の写真などを配置し、本人にとって暮らしやすい環境になるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者によって配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。各部屋にトイレが整備されているため、利便性も高い。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人一人の出来ること出来ないことを職員が把握し、その能力に応じて作業を職員と一緒にしている。職員もその方にとって出来るかも知れないことを実際にチャレンジしたり検討する場を設け、意見を出し合うようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900259
法人名	医療法人社団 栗整形外科病院
事業所名	グループホームどんぐり
所在地	四国中央市中之庄町393-1
自己評価作成日	平成21年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が併設型整形外科病院であり、個人のレベルに合わせたリハビリや日常生活の健康管理も十分にできており、急変時や特変時はすぐに対応できる環境にあります。  
 ・様々なレクリエーションを取り入れる事でその方一人一人に好きなレクリエーションを選んでいただいたり、様々な事を職員と共にチャレンジする機会を設けています。  
 また、音楽療法を月2回設けており、音楽療法士の先生が来られ、一人一人のプログラムに合わせて楽しく歌ったり、お話しする時間を作っています。ほとんどの利用者の方が参加され、心と身体のリハビリを職員と一緒に楽しく取り組んでいます。  
 ・外に出かける機会をなるべく多く持ちたいと考えており、少人数単位でゆっくり散歩に出かけたり、時間に余裕があれば市内をドライブしたりなど、気軽に外へ出かけられる環境作りを現在おこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人が病院や施設、デイサービスセンター、高齢者専用居住施設などを近接させてホームも運営している。ホームの利用者も施設居住者等も法人全体で生活を支援する取り組みを行っており、利用者にとっては近所付き合いが気軽にできる「地域」が存在している。ホームでは「自分らしさ」や「楽しい暮らし」という理念を実現するための支援に取り組んでいる。管理者等は、開設後7年目でこの理念の難しさを改めて感じていると言い、利用者の生活の質や職員のケアの質向上への意識の高さがうかがえる。医療面のケアは近接の病院に支援してもらえる安心感もあり、職員は介護に関してのプロ意識が高く、利用者の笑顔を引き出すことに余念がない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム どんぐり

(ユニット名) 2階 櫟

記入者(管理者)  
氏名 栗 育子

評価完了日 21年 8月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」を理念にあげており、職員の目に付くところに掲示することで理念を共有している。</p> <p>(外部評価) ホーム開設5年の節目に、理念の「自分らしさ」を利用者一人ひとりが表現しながら生活できているかについて、ホーム全体で見直しを行った。管理者や職員は理念を絶えず意識して共有化を図っており、新たな取り組みに踏み出している。</p>	管理者やホーム長は、利用者の生活を見つめる真摯な姿勢で、理念をサービス向上へ直結させる取り組みを行っている段階であり、それを結実させるための更なる取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所に散歩に出かけた際は積極的に挨拶をしたり、地域の祭りなどには神輿や太鼓が立ち寄ってもらったりお誘いを受けて出かけたたりしている。また、地域の幼稚園のお遊戯会や小学生のボランティア活動の場にもなっている。</p> <p>(外部評価) 地域とは法人の関連施設全体で交流を行っており、法人主催の催し物には近隣住民がたくさん参加している。また、ホームの利用者には、法人内の施設等の利用者とコミュニティを形成するという視点で、近所付き合いを楽しめる支援を行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の場で認知症について話したり、理解を深めていただける様な場を設けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で問題点や指摘点などがあがれば職員間 で話し合うようにしている。また、それに対しての改 善点などが見られた場合も運営推進会議の場で報告す るようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は回数も重ねてゆとりが見られ、管理者 は「雑談も多くなり」と謙遜するが、委員と運営推進 会議を通して打ち解けていることがうかがえる。委員 からは利用者のサービスに直結する提案も出されてお り、会議がサービス向上のために有効に活用されてい る。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) ふれいあい相談員さんが来られ、情報交換を行って いる。また、その都度気になったことなどはその場で話 し合っている。	市との連携で利用者のサービスが向上する一つの取 組みとして、市内のホーム同士の連携が考えられる が、まとめ役として市担当者や地域包括支援セン ター、社協等の積極的な協力を得ながら、ホーム同士 の連携を図っていく取り組みを期待したい。
			(外部評価) 母体法人が施設や病院、在宅サービス等を運営してい るために、ホームも含め法人自体が市内の社会資源と して定着している。そのため市との連携にも長い歴史 があり、協働して地域福祉の向上に努めている。しか し、利用者のサービスに直結するような取り組みが整 備されているとまでは言えない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束が必要ではないかなどの問題点が出た場合 は、職員間で身体拘束について勉強した上で、徹底的 に身体拘束をしない最善の方法を話し合うようにして いる。	
			(外部評価) 利用者の身体的安全の担保と精神的拘束等について、 事例を通してホーム全体で話し合いをもっている。ケ アに対する考え方についても、安全が優先されると利 用者には拘束につながることもあるため、安全確保の ために利用者が精神的なダメージを受けることのない よう、ホーム全体で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人の施設合同で勉強会を開催し、高齢者虐待関連法など講習を行うことで意識を深め防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などの場で学んでいるスタッフは居るが、それを他のスタッフに共有するまでは出来ていない。今後、勉強会の場などを設け、職員間で知識を共有し活用できるように努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする時はパンフレットや書類などで詳しく説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームや玄関・各階に意見箱を設置している、また、意見や要望に関しては来館時などに声掛けを行い口頭で伺うような関係作りに努めており、出た意見に関しては職員間で話し合う場を設け、積極的に改善できるように努めている。	
			(外部評価) 家族が近隣在住の場合は頻繁に来訪があるため、ユニット長が積極的に報告や相談を行っている。遠方の家族には電話等で定期的に連絡するよう心がけている。今後、家族と職員が協働する時間を確保することで異なった視点の意見が聞けることを期待して、家族に行事の際に援助を依頼することを予定していること等からも、家族の意見等を聞くための積極的な姿勢がうかがえる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングの際に、管理者と職員間での話し合う場を設けている。また、それに拘ることなく普段から意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。  (外部評価) 管理者とユニット長、ユニット長と職員、先輩職員と新任職員…など、定期的な会議以外でも色々な機会を通して話し合う時間を確保し、また運営者も気軽に職員に声をかけるなど、意見の言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与支給時、職員の良く努力している所や実績などについて本人と話し合う機会を持つようにしている。大正琴や詩吟など業務に必要なスキルアップ図れるように、講師を招いて定期的な練習の場を設け、イベントなど成果を発表する機会作りを積極的に行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月、同法人老健スタッフと合同の勉強会を行っている。またそれ以外にもなるべく研修の場を設けるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修などで知り合った方達と、定期的に連絡を取り合ったりしている。 また、昨年相互研修という形で互いの施設へ2名ずつ研修に出かけるなどの機会も設けた。今後もそのような機会を作っていければと思っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にお話しを十分に伺いなるべく入居に関しての不安を取り除くようにしている。また、入居後も不安や要望などを会話の中で伺い、自分から訴えの少ない方などには特に注意しながらケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の際に、家族が不安に思っている事や家族の希望などを必ず聞くようにしている。また、面会に来られた際などにも積極的にご家族に声を掛け、話しを聞き出せるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレット等で説明したり、介護保険の内容が分かりやすく説明している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来ることはなるべくしていただきながら、裁縫などの得意な事などは特に、「していただく」という意識よりも、職員の方が「教えていただいている」という意識の中でケアを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者と家族との関係が途切れないように努めており、何かあれば連絡をとったり来館していただく様にし、特に他科受診や外出などは行ける方には極力一緒に行っていたり協力を願っている。意見や気づきを職員と家族がお互いに言い合えるような関係作りが出来るように日々努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人のデイケアに通っている方や入院・入居している会いたい方が居れば、職員間で連絡を取り合い面会などの場を設けている。また、それ以外の場合は電話や手紙の支援をしている。会いたいと言われる場合は家族と相談し、なるべく希望に添えるように努めている。 (外部評価) 外出の際に、他の利用者に影響がない範囲で馴染みの場所に立ち寄ることもあるが、ホームでの生活が長い利用者の場合はかえって不安にさせる場合もあるので、見極めには十分注意している。法人全体で「地域」を形成していることが特徴の一つでもあり、新しい環境や人間関係に馴染むことにも力を入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員間で常に入居者同士の関係について気になることを話す機会を設け、ケアに活かしていくようにしている。特に、入居してすぐの方などはなるべく職員が間に入るなど円滑な関係を気づけるようなケアや声掛けを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同一法人の運営する、医療サービス、施設サービス、他の居宅サービスを提供することにより、総合的にサポートする環境を整え、退居後在宅担当者会議への意見紹介を行い、退去後支援も怠りのないよう努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアマネや計画作成担当を始め、各職員が希望や意向を聴き、カンファレンスを始め、日常の申し送りの際などに報告し、スタッフ全員で把握している。  (外部評価) 利用者との日常会話から人生の背景を知ろうとする姿勢で取り組んでおり、入浴ケアや散歩時などは思いや意向を聞き取る重要な時間と位置づけて積極的なアプローチをしている。聞き得た情報は申し送りや会議等で共有しているが、介護日誌のみに記録しているため、貴重な情報が埋もれてしまい、後での確認が難しくなることも考えられる。	積極的に収集した利用者の生活歴やちょっとした嗜好等の記録は貴重な財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものであるため、専用の用紙に書き足せるように工夫し、気軽に手にして読み返すことが可能な場所に設置する等、記録の蓄積と共有化を望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前・入居時に本人やご家族、在宅担当ケアマネ等から情報を収集し、各個別表に記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また、入居後も職員との会話の中で分かった事などは追加していくようにし、職員間で話し合っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一人一人の1日の状態が把握出来るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 定期的にカンファレンスを行っているが、家族の方の 参加が難しく、家族の意見が反映されているかは疑問 が残るが、参加出来ない場合は電話などを利用しなる べく意見が聞けるように努めている。	
			(外部評価) 担当職員制をとり、利用者のモニタリングは毎日の経 過記録を月ごとに集約したものを基に、全員で話し 合っている。ホーム全体で利用者全員を支援するとの 考えから、会議は3ユニット合同で、積極的な意見交 換を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 個別記録に日々の状況を細かく記載するように心がけ ている。職員は全ユニットを通し個別経過記録等の情 報を共有できるようにしている。気になる点について は誰でも記載するようにし、そのことについても検討す る機会を設けるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 法人所有の施設（リハビリ機器・入浴装置・福祉車両 等）をその時の利用者の状況や要望に合わせ、他部門 と連携しながら柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関などとは連携をと り、問題点や要望があれば気軽に協力依頼が出来るよ うな関係作りを構築している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 法人の施設として栗整形外科病院が隣接している為、 いつでも対応できるようになっている。また、本人や 家族の希望も聞き、かかりつけ医が他に有る場合も連 絡を取り受診が出来るように支援している。  (外部評価) 母体病院が地域に密着した活動を行っているため、在 宅時代からかかりつけ医になっている利用者が多い。 他にかかりつけ医がいる場合も母体病院が専門的な連 携を取る仕組みがある。ホームでの生活が長くなると 隣接している母体病院との繋がりがより強くなり利用 者や家族の信頼を得るため、安心を望む家族等の希望 でかかりつけ医が母体病院に変わることもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 法人の施設として栗整形外科病院が隣接しており、い つでも対応出来るようになっており、病院の看護師と 毎日連絡を取り合い、病院看護師も入居者の健康把 握・管理を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 同法人医療機関との連携は取れているが、他医療機関 にかかっている場合でも情報交換や相談をするよう にはしているが、連携が取れていると言えるほどでは ない。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在法人としては、同ユニットの他の利用者との関係 を鑑み、終末期の対応は併設病院ならびに併設施設に て対応することとしている。以上を説明した上で、本 人や家族が望むのであれば、他医療機関などとの連携 を取りケアしていくように努めている。  (外部評価) 利用者により良い生活を提供するため、法人の理念と してホームや施設、病院は役割分担を行っている。 ホームでは「福祉的に専門性を高める」という視点で の支援について話し合っている。職員にも介護のプロ という意識があり、協働してケアを行う視点を持ちな がら、他職種との連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年定期的に急変や事故発生時に備えての研修と訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年2回定期的に防火防災避難訓練を行っている。  (外部評価) 消防署も交えた避難訓練を年2回行っており、その都度防災の必要性をホームとして再認識している。避難訓練は法人全体で行うため本格的な体制が整備されており、利用者には安心感がある。	地震等の際には、耐震性が高く設備の整った法人の建物は地域の社会資源となり得るため、ホームの設備も含めて地域に社会資源としての役割を表明し、協力体制を築きながら地域貢献できる体制づくりに取り組むことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃から、一人一人個人のプライバシーを損ねないようなケアが出来るよう心がけ、スタッフ間で入居者に対する態度・言動など普段から個別に話し合える様にしている。  (外部評価) 各居室にトイレを設えているため、職員が利用者の居室に入る頻度は高いが、その度に声かけを欠かさずに行っており、プライバシー配慮の基本姿勢がうかがえる。職員は、利用者の人格を尊重するケアを目指した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から本人の希望や思いを聞き出せるような関係を築けるように心がけており、一人一人ゆっくりと話しを伺えるよう努めている。また、本人が理解し、納得できるように何事もよく説明するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の毎日の健康状態をよく観察し、把握することでその人のペースを崩すことなく生活していただけるよう努めている。希望があれば、入浴や散歩など柔軟に対応するようにしてる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣をする際は自分で服を選べるように声掛けやアドバイスを職員は行っている。美容院も昔から慣れ親しんだ所へ行く人も多く、行けるように支援している。月何度かの出張美容室を利用する人も多い。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) なるべく入居者の好みや希望を聞き、季節にあった食事が提供できるようにしている。その都度、味や固さ量なども感想として聞くようにしている。調理などはされないが、食事の片付けや配膳はお手伝いして下さる方が多い。 (外部評価) ホームは3ユニットだが、食事は1階ユニットの利用者が2・3階のユニットに分かれて、2ユニットで取っている。大勢で賑やかな方が楽しいことと、利用者が行き先を時々変えることで雰囲気が変わり、さらに食事を楽しめる仕掛けとしている。また、職員も分かれることで、食事介助や声かけが細やかにできることも利点として捉えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は職員が側におり、毎日の食事量をチェックしている。水分量に関しては食事の際、入浴後、訪室時などに水分補給を促すようにしている。また、各自でペットボトルなどに還元水を入れ毎日汲みに行き飲まれる方も多い。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科往診もありDrと連携し、口腔ケアに努めている。ご自分でのケアが難しい方に対しては職員で食後、就寝前にケアをするようにしている。また、口腔状態に応じ専用器具なども歯科Drと相談し利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的にトイレ誘導を行っているが、その方の状態に合わせ、その都度のトイレ誘導も行っている。また、職員間でカンファレンスを行い、排泄面での自立に向けて話し合い、布パンツへ移行するための話し合いも行い、現在支援中である。	
			(外部評価) 利用者の排泄の自立度には差があるが、それぞれのレベルに合わせて排泄ケアに取り組んでいる。自立度の高い利用者には目くばせや声かけを行い、配慮が必要な利用者には、排泄チェック表を基に適切な誘導やケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の場合はNs、Drと相談し、便秘薬を服用するなどの対応を行っているが、なるべく自力排便出来るように運動を促したり水分摂取を促すなどのケアを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ユニット単位の入浴設備利用はもちろん併設施設の準温泉の大浴場・個別浴・シャワー浴も利用し、本人の希望・本人の身体機能等、その日の状態に合わせて入浴を行っている。	
			(外部評価) ホームにもゆったりとした浴室があるが、併設施設等には温泉気分を味わえる浴槽や介護が必要な利用者でも安心して入れる設備等があり、大きな法人の利点を活用しながら利用者に入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠ペースを尊重するようにしている。眠れないと出てこられる方や不安が有る方には職員がしばらく側についてお話ししたり安心していただけるような対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人が服用している薬と効果・副作用を書いた一覧表を置いてあり、現在服用中の薬や変更になった薬などをすぐに情報が共有できるようにしている。新しく処方された薬に関しては特に服用後の状態観察を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内でのレクリエーションなどの参加を呼びかけ、大正琴や詩吟、音楽療法や陶芸など自由に参加出来るようにしている。また、これまでの趣味や生活ペースを崩さず続けていけるよう支援し、俳句を新聞に投書したり、縫い物などをされている方も居る。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば家族と相談の元、体調の許す限り自由に出かけていただいている。なるべくは家族の方に協力していただくようにしているが、職員が同行したり、馴染みのタクシー運転手や外出先の方に協力していただくこともある。 (外部評価) ホームの玄関口は施設の前庭と一緒にいるため、利用者は気軽に外気浴を楽しんでいる。デイサービスや施設のカラオケ等のちょっとしたイベントにも、職員に笑顔で「いってらっしゃい」と声をかけてもらいながら出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には自由に所持していただいているが、認知症が進んでいる方や置き忘れ、物盗られ妄想などが有る方に関しては少額を所持していただいている。買い物などに出かけた際は、支払いは自分の手からお金を出してお店の人に渡せる様に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自室に電話を引く事が出来るように設備していると共に、居室に携帯電話を持ち込まれている人も多く、公衆電話も設置している。手紙や郵便物はポストを館内(2階)に設置し対応しているが、職員に直接手渡しで頼む方が殆どであり、その都度対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ホームの内部や居室は民芸調の雰囲気で落ち着いた雰囲気や色合いの内装にしている。玄関や食堂、詰所前には季節の花や季節の飾り付けを行い、入居者の方が楽しめるようにしている。</p> <p>(外部評価) ホームの造りはゆったりとしており、海向きの大きな窓もあるため、共用空間に大きなテーブルを並べていても開放的な雰囲気がある。1階のリビングを3ユニット協働のスペースとして開放しており、利用者同士のふれあいの場となっている。ホームの特徴をフルに活用しながら、利用者が心地よく過ごせるような工夫がなされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 廊下ソファや詰所前にテーブルと椅子を設置し、そこで気のあった方とお喋りが出来る場所を作っている。また、マッサージチェアを設置する事で気楽に一人くつろぐ方も多い。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室内には本人の使い慣れた物や、思い出の品、家族の写真などを配置し、本人にとって暮らしやすい環境になるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者によって配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。各部屋にトイレが整備されているため、利便性も高い。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人一人の出来ること出来ないことを職員が把握し、その能力に応じて作業を職員と一緒にしている。職員もその方にとって出来るかも知れないことを実際にチャレンジしたり検討する場を設け、意見を出し合うようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900259
法人名	医療法人社団 栗整形外科病院
事業所名	グループホームどんぐり
所在地	四国中央市中之庄町393-1
自己評価作成日	平成21年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が併設型整形外科病院であり、個人のレベルに合わせたリハビリや日常生活の健康管理も十分にできており、急変時や特変時はすぐに対応できる環境にあります。  
 ・様々なレクリエーションを取り入れる事でその方一人一人に好きなレクリエーションを選んでいただいたり、様々な事を職員と共にチャレンジする機会を設けています。  
 また、音楽療法を月2回設けており、音楽療法士の先生が来られ、一人一人のプログラムに合わせて楽しく歌ったり、お話しする時間を作っています。ほとんどの利用者の方が参加され、心と身体のリハビリを職員と一緒に楽しく取り組んでいます。  
 ・外に出かける機会をなるべく多く持ちたいと考えており、少人数単位でゆっくり散歩に出かけたり、時間に余裕があれば市内をドライブしたりなど、気軽に外へ出かけられる環境作りを現在おこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人が病院や施設、デイサービスセンター、高齢者専用居住施設などを近接させてホームも運営している。ホームの利用者も施設居住者等も法人全体で生活を支援する取り組みを行っており、利用者にとっては近所付き合いが気軽にできる「地域」が存在している。ホームでは「自分らしさ」や「楽しい暮らし」という理念を実現するための支援に取り組んでいる。管理者等は、開設後7年目でこの理念の難しさを改めて感じていると言い、利用者の生活の質や職員のケアの質向上への意識の高さがうかがえる。医療面のケアは近接の病院に支援してもらえる安心感もあり、職員は介護に関してのプロ意識が高く、利用者の笑顔を引き出すことに余念がない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム どんぐり

(ユニット名) 1階 檜

記入者(管理者)  
氏名 栗 育子

評価完了日 21年 8月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」を理念にあげており、職員の目に付くところに掲示することで理念を共有している。</p> <p>(外部評価) ホーム開設5年の節目に、理念の「自分らしさ」を利用者一人ひとりが表現しながら生活できているかについて、ホーム全体で見直しを行った。管理者や職員は理念を絶えず意識して共有化を図っており、新たな取り組みに踏み出している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所に散歩に出かけた際は積極的に挨拶をしたり、地域の祭りなどには神輿や太鼓が立ち寄ってもらったりお誘いを受けて出かけたりしている。また、地域の幼稚園のお遊戯会や小学生のボランティア活動の場にもなっている。</p> <p>(外部評価) 地域とは法人の関連施設全体で交流を行っており、法人主催の催し物には近隣住民がたくさん参加している。また、ホームの利用者には、法人内の施設等の利用者とコミュニティを形成するという視点で、近所付き合いを楽しめる支援を行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の場で認知症について話したり、理解を深めていただける様な場を設けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で問題点や指摘点などがあがれば職員間 で話し合うようにしている。また、それに対しての改 善点などが見られた場合も運営推進会議の場で報告す るようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は回数も重ねてゆとりが見られ、管理者 は「雑談も多くなり」と謙遜するが、委員と運営推進 会議を通して打ち解けていることがうかがえる。委員 からは利用者のサービスに直結する提案も出されてお り、会議がサービス向上のために有効に活用されてい る。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) ふれあい相談員さんが来られ、情報交換を行ってい る。また、その都度気になったことなどはその場で話 し合っている。	
			(外部評価) 母体法人が施設や病院、在宅サービス等を運営してい るために、ホームも含め法人自体が市内の社会資源と して定着している。そのため市との連携にも長い歴史 があり、協働して地域福祉の向上に努めている。しか し、利用者のサービスに直結するような取組みが整 備されているとまでは言えない。	市との連携で利用者のサービスが向上する一つの取り 組みとして、市内のホーム同士の連携が考えられる が、まとめ役として市担当者や地域包括支援セン ター、社協等の積極的な協力を得ながら、ホーム同士 の連携を図っていく取組みを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束が必要ではないかなどの問題点が出た場合 は、職員間で身体拘束について勉強した上で、徹底的 に身体拘束をしない最善の方法を話し合うようにして いる。	
			(外部評価) 利用者の身体的安全の担保と精神的拘束等について、 事例を通してホーム全体で話し合いをもっている。ケ アに対する考え方についても、安全が優先されると利 用者には拘束につながることもあるため、安全確保の ために利用者が精神的なダメージを受けることのない よう、ホーム全体で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人の施設合同で勉強会を開催し、高齢者虐待関連法など講習を行うことで意識を深め防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などの場で学んでいるスタッフは居るが、それを他のスタッフに共有するまでは出来ていない。今後、勉強会の場などを設け、職員間で知識を共有し活用できるように努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする時はパンフレットや書類などで詳しく説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームや玄関・各階に意見箱を設置している、また、意見や要望に関しては来館時などに声掛けを行い口頭で伺うような関係作りに努めており、出た意見に関しては職員間で話し合う場を設け、積極的に改善できるように努めている。	
			(外部評価) 家族が近隣在住の場合は頻繁に来訪があるため、ユニット長が積極的に報告や相談を行っている。遠方の家族には電話等で定期的に連絡するよう心がけている。今後、家族と職員が協働する時間を確保することで異なった視点の意見が聞けることを期待して、家族に行事の際に援助を依頼することを予定していること等からも、家族の意見等を聞くための積極的な姿勢がうかがえる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月ミーティングの際に、管理者と職員間での話し合う場を設けている。また、それに拘ることなく普段から意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者とユニット長、ユニット長と職員、先輩職員と新任職員…など、定期的な会議以外でも色々な機会を通して話し合う時間を確保し、また運営者も気軽に職員に声をかけるなど、意見の言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 賞与支給時、職員の良く努力している所や実績などについて本人と話し合う機会を持つようにしている。大正琴や詩吟など業務に必要なスキルアップ図れるように、講師をを招いて定期的な練習の場を設け、イベントなど成果を発表する機会作りを積極的に行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 毎月、同法人老健スタッフと合同の勉強会を行っている。またそれ以外にもなるべく研修の場を設けるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修などで知り合った方達と、定期的に連絡を取り合ったりしている。 また、昨年相互研修という形で互いの施設へ2名ずつ研修に出かけるなどの機会も設けた。今後もそのような機会を作っていければと思っている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前にお話を十分に伺いなるべく入居に関しての不安を取り除くようにしている。また、入居後も不安や要望などを会話の中で伺い、自分から訴えの少ない方などには特に注意しながらケアを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の際に、家族が不安に思っている事や家族の希望などを必ず聞くようにしている。また、面会に来られた際などにも積極的にご家族に声を掛け、話しを聞き出せるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレット等で説明したり、介護保険の内容が分かりやすく説明している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来ることはなるべくしていただきながら、裁縫などの得意な事などは特に、「していただく」という意識よりも、職員の方が「教えていただいている」という意識の中でケアを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者と家族との関係が途切れないように努めており、何かあれば連絡をとったり来館していただく様にし、特に他科受診や外出などは行ける方には極力一緒に行っていたり協力をお願いしている。意見や気づきを職員と家族がお互いに言い合えるような関係作りが出来るように日々努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人のデイケアに通っている方や入院・入居している会いたい方が居れば、職員間で連絡を取り合い面会などの場を設けている。また、それ以外の場合は電話や手紙の支援をしている。会いたいと言われる場合は家族と相談し、なるべく希望に添えるように努めている。 (外部評価) 外出の際に、他の利用者に影響がない範囲で馴染みの場所に立ち寄ることもあるが、ホームでの生活が長い利用者の場合はかえって不安にさせる場合もあるので、見極めには十分注意している。法人全体で「地域」を形成していることが特徴の一つでもあり、新しい環境や人間関係に馴染むことにも力を入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員間で常に入居者同士の関係について気になることを話す機会を設け、ケアに活かしていくようにしている。特に、入居してすぐの方などはなるべく職員が間に入るなど円滑な関係を気づけるようなケアや声掛けを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同一法人の運営する、医療サービス、施設サービス、他の居宅サービスを提供することにより、総合的にサポートする環境を整え、退居後在宅担当者会議への意見紹介を行い、退去後支援も怠りのないよう努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアマネや計画作成担当を始め、各職員が希望や意向を聴き、カンファレンスを始め、日常の申し送りの際などに報告し、スタッフ全員で把握している。	
			(外部評価) 利用者との日常会話から人生の背景を知ろうとする姿勢で取り組んでおり、入浴ケアや散歩時などは思いや意向を聞き取る重要な時間と位置づけて積極的なアプローチをしている。聞き得た情報は申し送りや会議等で共有しているが、介護日誌のみに記録しているため、貴重な情報が埋もれてしまい、後での確認が難しくなることも考えられる。	積極的に収集した利用者の生活歴やちょっとした嗜好等の記録は貴重な財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものであるため、専用の用紙に書き足せるように工夫し、気軽に手にして読み返すことが可能な場所に設置する等、記録の蓄積と共有化を望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前・入居時に本人やご家族、在宅担当ケアマネ等から情報を収集し、各個別表に記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また、入居後も職員との会話の中で分かった事などは追加していくようにし、職員間で話合っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一人一人の1日の状態が把握出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にカンファレンスを行っているが、家族の方の参加が難しく、家族の意見が反映されているかは疑問が残るが、参加出来ない場合は電話などを利用しなるべく意見が聞けるように努めている。	
			(外部評価) 担当職員制をとり、利用者のモニタリングは毎日の経過記録を月ごとに集約したものを基に、全員で話し合っている。ホーム全体で利用者全員を支援するとの考えから、会議は3ユニット合同で、積極的な意見交換を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に日々の状況を細かく記載するように心がけている。職員は全ユニットを通し個別経過記録等の情報を共有できるようにしている。気になる点については誰でも記載するようにし、そのことについても検討する機会を設けるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人所有の施設（リハビリ機器・入浴装置・福祉車両等）をその時の利用者の状況や要望に合わせ、他部門と連携しながら柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関などとは連携をとり、問題点や要望があれば気軽に協力依頼が出来るような関係作りを構築している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 法人の施設として栗整形外科病院が隣接している為、 いつでも対応できるようになっている。また、本人や 家族の希望も聞き、かかりつけ医が他に有る場合も連 絡を取り受診が出来るように支援している。  (外部評価) 母体病院が地域に密着した活動を行っているため、在 宅時代からかかりつけ医になっている利用者が多い。 他にかかりつけ医がいる場合も母体病院が専門的な連 携を取る仕組みがある。ホームでの生活が長くなると 隣接している母体病院との繋がりがより強くなり利用 者や家族の信頼を得るため、安心を望む家族等の希望 でかかりつけ医が母体病院に変わることもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 法人の施設として栗整形外科病院が隣接しており、い つでも対応出来るようになっており、病院の看護師と 毎日連絡を取り合い、病院看護師も入居者の健康把 握・管理を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 同法人医療機関との連携は取れているが、他医療機関 にかかっている場合でも情報交換や相談をするよう にはしているが、連携が取れていると言えるほどでは ない。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在法人としては、同ユニットの他の利用者との関係 を鑑み、終末期の対応は併設病院ならびに併設施設に て対応することとしている。以上を説明した上で、本 人や家族が望むのであれば、他医療機関などとの連携 を取りケアしていくように努めている。  (外部評価) 利用者により良い生活を提供するため、法人の理念と してホームや施設、病院は役割分担を行っている。 ホームでは「福祉的に専門性を高める」という視点で の支援について話し合っている。職員にも介護のプロ という意識があり、協働してケアを行う視点を持ちな がら、他職種との連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年定期的に急変や事故発生時に備えての研修と訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年2回定期的に防火防災避難訓練を行っている。  (外部評価) 消防署も交えた避難訓練を年2回行っており、その都度防災の必要性をホームとして再認識している。避難訓練は法人全体で行うため本格的な体制が整備されており、利用者には安心感がある。	地震等の際には、耐震性が高く設備の整った法人の建物は地域の社会資源となり得るため、ホームの設備も含めて地域に社会資源としての役割を表明し、協力体制を築きながら地域貢献できる体制づくりに取り組むことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃から、一人一人個人のプライバシーを損ねないようなケアが出来るよう心がけ、スタッフ間で入居者に対する態度・言動など普段から個別に話し合える様になっている。  (外部評価) 各居室にトイレを設えているため、職員が利用者の居室に入る頻度は高いが、その度に声かけを欠かさずに行っており、プライバシー配慮の基本姿勢がうかがえる。職員は、利用者の人格を尊重するケアを目指した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から本人の希望や思いを聞き出せるような関係を築けるように心がけており、一人一人ゆっくりと話しを伺えるよう努めている。また、本人が理解し、納得できるように何事もよく説明するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の毎日の健康状態をよく観察し、把握することでその人のペースを崩すことなく生活していただけるよう努めている。希望があれば、入浴や散歩など柔軟に対応するようにしてる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣をする際は自分で服を選べるように声掛けやアドバイスを職員は行っている。美容院も昔から慣れ親しんだ所へ行く人も多く、行けるように支援している。月何度かの出張美容室を利用する人も多い。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) なるべく入居者の好みや希望を聞き、季節にあった食事が提供できるようにしている。その都度、味や固さ量なども感想として聞くようにしている。調理などはされないが、食事の片付けや配膳はお手伝いして下さる方が多い。 (外部評価) ホームは3ユニットだが、食事は1階ユニットの利用者が2・3階のユニットに分かれて、2ユニットで取っている。大勢で賑やかな方が楽しいことと、利用者が行き先を時々変えることで雰囲気が変わり、さらに食事を楽しめる仕掛けとしている。また、職員も分かれることで、食事介助や声かけが細やかにできることも利点として捉えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は職員が側におり、毎日の食事量をチェックしている。水分量に関しては食事の際、入浴後、訪室時などに水分補給を促すようにしている。また、各自でペットボトルなどに還元水を入れ毎日汲みに行き飲まれる方も多い。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科往診もありDrと連携し、口腔ケアに努めている。ご自分でのケアが難しい方に対しては職員で食後、就寝前にケアをするようにしている。また、口腔状態に応じ専用器具なども歯科Drと相談し利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 定期的にトイレ誘導を行っているが、その方の状態に合わせ、その都度のトイレ誘導も行っている。また、職員間でカンファレンスを行い、排泄面での自立に向けて話し合い、布パンツへ移行するための話し合いも行い、現在支援中である。</p> <p>(外部評価) 利用者の排泄の自立度には差があるが、それぞれのレベルに合わせて排泄ケアに取り組んでいる。自立度の高い利用者には目くばせや声かけを行い、配慮が必要な利用者には、排泄チェック表を基に適切な誘導やケアを行っている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘の場合はNs、Drと相談し、便秘薬を服用するなどの対応を行っているが、なるべく自力排便出来るように運動を促したり水分摂取を促すなどのケアを行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) ユニット単位の入浴設備利用はもちろん併設施設の準温泉の大浴場・個別浴・シャワー浴も利用し、本人の希望・本人の身体機能等、その日の状態に合わせて入浴を行っている。</p> <p>(外部評価) ホームにもゆったりとした浴室があるが、併設施設等には温泉気分を味わえる浴槽や介護が必要な利用者でも安心して入れる設備等があり、大きな法人の利点を活用しながら利用者に入浴を楽しんでもらえるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 一人一人の睡眠ペースを尊重するようにしている。眠れないと出てこられる方や不安が有る方には職員がしばらく側についてお話ししたり安心していただけるような対応を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人が服用している薬と効果・副作用を書いた一覧表を置いてあり、現在服用中の薬や変更になった薬などをすぐに情報が共有できるようにしている。新しく処方された薬に関しては特に服用後の状態観察を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内でのレクリエーションなどの参加を呼びかけ、大正琴や詩吟、音楽療法や陶芸など自由に参加出来るようにしている。また、これまでの趣味や生活ペースを崩さず続けていけるよう支援し、俳句を新聞に投書したり、縫い物などをされている方も居る。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば家族と相談の元、体調の許す限り自由に出かけていただいている。なるべくは家族の方に協力していただくようにしているが、職員が同行したり、馴染みのタクシー運転手や外出先の方に協力していただくこともある。  (外部評価) ホームの玄関口は施設の前庭と一緒にいるため、利用者は気軽に外気浴を楽しんでいる。デイサービスや施設のカラオケ等のちょっとしたイベントにも、職員に笑顔で「いってらっしゃい」と声をかけてもらいながら出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には自由に所持していただいているが、認知症が進んでいる方や置き忘れ、物盗られ妄想などが有る方に関しては少額を所持していただいている。買い物などに出かけた際は、支払いは自分の手からお金を出してお店の人に渡せる様に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自室に電話を引く事が出来るように設備していると共に、居室に携帯電話を持ち込まれている人も多く、公衆電話も設置している。手紙や郵便物はポストを館内(2階)に設置し対応しているが、職員に直接手渡しで頼む方が殆どであり、その都度対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ホームの内部や居室は民芸調の雰囲気で落ち着いた雰囲気や色合いの内装にしている。玄関や食堂、詰所前には季節の花や季節の飾り付けを行い、入居者の方が楽しめるようにしている。</p> <p>(外部評価) ホームの造りはゆったりとしており、海向きの大きな窓もあるため、共用空間に大きなテーブルを並べていても開放的な雰囲気がある。1階のリビングを3ユニット協働のスペースとして開放しており、利用者同士のふれあいの場となっている。ホームの特徴をフルに活用しながら、利用者が心地よく過ごせるような工夫がなされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 廊下ソファや詰所前にテーブルと椅子を設置し、そこで気のあった方とお喋りが出来る場所を作っている。また、マッサージチェアを設置する事で気楽に一人くつろぐ方も多い。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室内には本人の使い慣れた物や、思い出の品、家族の写真などを配置し、本人にとって暮らしやすい環境になるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者によって配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。各部屋にトイレが整備されているため、利便性も高い。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人一人の出来ること出来ないことを職員が把握し、その能力に応じて作業を職員と一緒にしている。職員もその方にとって出来るかも知れないことを実際にチャレンジしたり検討する場を設け、意見を出し合うようにしている。</p>	